

シビックプライド

高松のヒトとコトをつなぐデザイン

日時：平成28年12月17日（土）14：00～16：40

場所：栗林公園 商工奨励館北館

主催：シビックプライド高松

後援：高松市、香川大学大学院地域マネジメント研究科

次第：

○基調講演「シビックプライドについて」

講師：紫牟田伸子（しむた のぶこ）

○事例紹介 シビックプライドの醸成について高松市の事例からお話しいただく

講師：人見訓嘉

○トークセッション（紫牟田伸子、人見訓嘉）

内容：

○シビックプライドとは

- ・シビックプライドとは「市民の都市に対する自負」です。
- ・「市民」とは住民だけでなく、移住してきた人々や働きに来ている人も含みます。
- ・「シビックプライド高松」は、高松に関わる人々が、高松に対して当事者意識と誇りを持ち、将来に向けて高松の魅力を高めたいという思い（シビックプライド）の醸成を研究する社会人学生が設立した団体です。

○司会：石原美保

14:04~14:08 開会 さとうはやと

- ・テーマはシビックプライドについてです。
- ・市民の都市に対する誇り 人口減少、高齢化社会の課題を解決するために、行政がトップダウン型のまちづくりが行われている。
- ・これに加えて、市民やそこに住む人が、自らが行動するボトムアップ型のまちづくりを進めることが大事と考えている。
- ・「シビックプライド高松」は、石原、でみず、岡林、〇〇の4人の社会人学生で設立した団体。よりよい高松市を次世代に引き継ぐことを目標に設立。
- ・香川大学大学院地域マネジメント研究科に在籍2年目。3名で修士論文を執筆中。テーマは「高松市に対するシビックプライド」です。
- ・内部からわき上がる活動が、持続可能なまちづくりと考え、取り組んでいる。
- ・内に秘めているシビックプライドが表面化し、自らが高松市を魅力あるまちにしたいと行動に移すことで、活性化が図られることを期待しています。

14:08~15:22 基調講演「シビックプライドについて」

○講師：紫牟田伸子（しむた のぶこ）

○プロフィール

- ・編集家、プロジェクトエディター、デザインプロデューサー、美術出版社、日本デザインセンターを経て、2011年に独立。
- ・「ものごとの編集」を軸に企業や社会・地域に適切に作用するデザインを目指し、地域や企業の商品開発、ブランディング、コミュニケーション戦略などに携わる。
- ・平成22年10月から四国経済産業局主催の「しこく編集学校」のナビゲーターを務めるなど、

四国に縁がある方。

○はじめに

- ・今日のこの服装は、高松のセレクトショップで買ったパンツです。
- ・高松に来るのがとても楽しみです。天気が良く、栗林公園でこんなすてきな会場で、とてもうれしく、フワフワした気持ち。
- ・美術出版社で美術の本を出していた。編集はものづくりに応用できると思った。展覧会は「編集」です。なにを、どのように展示するか、・・・。
- ・何か人に伝えたいことがあって、ものを「編集」するんだなあと思い、編集社に入った。
- ・デザイン自体も「編集」的だと思った。意図や価値を可視化することがデザイン。デザインがおもしろいと思い始めた。
- ・編集 = 可視化・価値化

○おいしいキッチン

- ・2005年頃から、何かプロジェクトを作る時代。
- ・おいしいキッチン 福井の異業種5社 めがね屋、包丁屋、家具屋、高機能繊維 が一つのブランドを構築。
- ・次にも持続できるように、売り上げの1%を福井市の協議会にプールし、次のモチベーションの高い企業さんに使ってもらいたいと思っていた。

○すみだものづくりプロモーション

- ・スカイツリーが出来る数年前から、墨田区をブランディングしよう
- ・地域の企業産と、一つのテーマのもと物づくりをしよう。
- ・東かがわ市の手袋、・・・

○エリア開発

- ・なにもないところにもものを作るエリア開発
- ・シビック（市民）・プライド（誇り） → 地と人の関係を調べよう
- ・2008年に著書「シビックプライド」を出した。海外の事例だったので、国内編の「シビックプライド2」を出した。
- ・「CIVIC ECONOMY」自分たちも儲けつつ、社会的な役割を果たす。
- ・エコノミー 循環として「主体」「主体を支える人」「 」
- ・市民が町をこうしたいというときに、どうやってアウトプットすればいいか小冊子「まちなみデザイン逗子」を出した。

○しおじり ホームページ

- ・塩尻市のプロモーション
- ・平均年齢72歳の会社 社長募集中
- ・移住をプロモーションするサイト

○Projectability

- ・地域研究 地域で「何かやらないと」と思った人たちの中から、おもしろいと思ったものをピックアップし、なぜおもしろいのか。
- ・プロジェクトするアビリティ、投影可能な状態にするプロセスの中でどんな力が必要なのか、

どう行政的に評価できるのか、3年間やってきた。

○シビックプライド

- ・都市に対する市民の誇り。「市民」であって「住民」だけではなく、移住してきた人や働きに来ている人も含む。
- ・ここをより良い場所にしようと関わっている自負心。
- ・誇りなので、それぞれの個人の心の中に育まれるもの。個人のなかに作られる、人と都市の関係性。
- ・都市と人の関係が強まれば、都市全体の印象や雰囲気が変わり、人と都市の一体感が高まる。
- ・あなた自身が、まちなのです。あなたの家だったらゴミを捨てないでしょ。町を自分の家のように感じていないからゴミを捨てている。
- ・町が自分の家のように自分を受け入れられていること。

○なぜ、シビックプライドが生まれてきた？

- ・産業革命時代、地方から都市に人が集まり、工場で働き始める。
- ・こんな外から来た人たちも、この町の市民だという思いを残したく「市庁舎」を建てた。

○まちに人を引き寄せるのは「人々」である

- ・昔は工業、仕事があることが人を呼び寄せたかもしれない。
- ・しかし、今はまちに人を呼び込むのは「人々」ではないか。
- ・シビックプライドは、集団行動と個人の自発性の原動力である。
シビックプライドは地域のビジョンであって、国のマスタープランではない。
- ・シビックプライドを押しつけることはできない。シビックプライドは育まなければならない。

○EUの背景

- ・EU統合により、国家の枠を越えて住民、観光、産業、投資、イベント誘致などの都市間競争が激化。
- ・都市再生（ハード面とソフト面）産業構造の変化によって荒廃している産業用地跡地などを再生する動きが活発化。
- ・人々の心に届ける取り組みが・・・

○I a m s t e r d a m

- ・市民こそ都市である
- ・アムステルダムに住みたい、アムステルダムに家を持ちたいと思っている人、外の人にも、うちの人にも、観光客にも、ビジネスの人にも・・・
- ・ひとりひとりが見える都市は、それぞれ異なる。
運河の町、自転車の町、美術館の町、ナイトライフも充実 寛容な町 異教徒なども受け入れてきた。
- ・まちの魅力を高めていくには「寛容性」をアピールしてはと考えた。
- ・これはシビックプライドである。

○B a r c e l o n a , S p a i n

- ・B
- ・BARCELONA BATEGA! 市民がドキドキするとまちがドキドキする

○Berlin

- ・アンペルマン 歩行者用信号の「進め」の人型
- ・東西統合により、消えゆくアンペルマンを残そうと市民が動いた。パスタやおみやげ物になった。

○OpenHouse, London

- ・様々なイベントを通じ、建築、都市公共空間、都市デザインへの理解を促し、豊かな建築資源を都市の自信とアイデンティティに繋げる。
- ・建築は町の文化

○まちと人のコミュニケーション = 多様なコミュニケーションポイント

- ・環境、公共的な空間、イベント、公共交通機関の雰囲気、建築、都市空間
- ・まちを、情報、空間、アイデンティティ、アクティビティで理解、体験、感じる。

○地方行政でのシビックプライド

- ・まちづくりの楽しさを知り、それによって生まれる豊かさを知る。

○日本の背景

- ・人口減少と地方分権
- ・アジアの都市間競争
- ・観光を大きな特色として考えるべき。

○Sapporo, Hokkaido

○Morioka,

○Kagawa

- ・小学生が商店街活性化プログラムを

○CITY FONT

- ・きんしゃちフォント
- ・名古屋の金の鯨の特徴を文字のフォントに取り込む。

- ・仏生山温泉 温泉を中心にしながら、まちぐるみで楽しくしていこう。
- ・まちじゅうが一つの家となりパン屋さんやお風呂やくつろげるところがある。

○The people are the city.

○シビックプライドの捉えられ方

- ・社会参画の視点
- ・都市アイデンティティの視点
- ・熱狂的愛郷心の視点

- ・ひとりひとりができることをすればいいのです。
- ・みんながやる必要はないのです。
- ・パブリックマインド
↓
- ・まちって楽しい

都市を眺めるということが、それがどんなにありふれた風景であれ、まことに楽しいものである。人はそれぞれに都市をみている。

15:10～15:22 質疑

男性Q：行政で働く者です。最後に話された「ひとりひとりができることをすればいいのです。みんながやる必要はないのです」は、そのとおりだと思います。平等、公平を第一とする行政としては、とてもやりにくいことですが、とてもまちづくりには大切なことだと思います。

- ・いろいろな例をあげていただき、〇〇がなくなる、なんとかしなければといった共通の「敵」「課題」があって、市民が大きく動き出しているように感じた。
- ・香川外の方である紫牟田さんから見た、香川の課題、共通の敵は何かあるでしょうか。

紫牟田A：

- ・行政は市民にサービスするものとの考えを転換する必要がある。行政が全てのサービスをするのが難しい時代、教育、福祉、・・・多様な課題
- ・地域や社会に貢献する人を行政は助けないといけない。楽しく課題を解決することにチャレンジする人は、行政と結びつくことが大事。
- ・規制緩和ではなく、新しい方策を考えること。シビックエコノミー 行政と市民が新しい循環をつくるのが大事。
- ・高速道路の下をスポーツ施設にする。日本には指定管理の制度しかないので、1年1年ごとに契約をしていくことは、継続性が難しい。イギリスではNPOが運営する。
- ・豊洲を民間企業にしたらとの提案に、入場料が上がると心配される。入場料が上がらないようにすればいい、高速道路の下のスポーツ施設の料金体制も多様にしている。
- ・政府の土地、100年間を1円で貸して、利益を社会貢献に使うことを条件にする。
- ・「公共」は「公立」ではない。民間が図書館を作って公開すればそれは公共として機能する。
- ・行政はもっとコミュニケーションがうまくできたら

15:22～15:30 休憩

15:30～15:57 事例紹介 シビックプライドの醸成について事例からお話しいただく

○講師：人見訓嘉 コピーライター、クリエイティブディレクター、高松市広報アドバイザー

○研究会から指定されたキーワード

- ・気づき
- ・表現
- ・デザイン

○最近わたしが経験したこと

- ・レンタカーとして借りたプリウス

- ・車車間通信システム：車速を設定するとその速度を維持し、前の車との間隔が詰まりそうになると速度をコントロールする。
- ・レーンディパーチャーアラート：ウィンカーを出さずにラインを超えそうになるとアラートがなる
- ・車のデザインはもう行き着くところまで来ていると思っていた → 「安全性の向上」というデザインの必要な部分があった

○クリエイティブとは、関係性の再構築

◇クリエイティブとは

- ・つなぐ
- ・コンパクト
- ・共感する
- ・

○ツールとしての「デザイン」の定義

- ・カタチのデザイン
- ・企業・ビジネスのデザイン
- ・社会のデザイン

○デザイン思考の3つの段階

- ・関係性の再構築
- ・
- ・

○デザイン思考の成功例

◇イタリア ポローニャ

- ・家内性手工業の関係性を見直し、

◇イギリス グラスゴー

- ・分野横断的な組織作りによる新しい都市づくり

◇高松市

- ・瀬戸内芸術祭が都市の再構築

○高松市

- ・歴史的にも海運の盛んな地域
- ・直島：銅の精錬所だったことによる環境破壊、豊島：産業廃棄物で苦しんでいたものをデザインで関係性の再構築
- ・人を媒体としたアートと地域の関係性の再構築

○鶴屋イノベーションプロジェクト

- ・百年後も熊本県のデパート鶴屋が愛し続けられるプロジェクトを考えてほしい。
- ・人材改革プロジェクトを提案
アイデア人材育成

企画コンペの実施
評価方法の見直し

○「わたくしごとプロジェクト」(CONERI)

- ・社長の「想い」に共感できる求職者を募ることができる仕組みをつくる
- ・それを「わたくしごと」とネーミング

○デザイン思考の役割

- ・デザインとは、マインドフルネスの状態を瞬間的に作るのでは。
- ・マインドフルネスとは、時々刻々の気づきを維持すること、

○デザイン思考のベース

- ・自己肯定感
日本は45%、アメリカは80%以上
- ・自己肯定感がベースにないと、自分の考えを口にするには勇気が必要で、それには自己肯定感が必要。
- ・デザイン思考のできる人が増えることがまちを良くし、シビックプライドの醸成に寄与する。

○気づき

- ・異なるモノを関連づけないと、その先の見通しを立てないと動きようがない
- ・観察する力
- ・疑問に持つ力、関係性に気づく力
- ・見通しを立てる
- ・表現をするには、少し「覚悟」がいる。

司会：シビックプライドを醸成していくには、表現、行動に結びつけないといけないと思い、人見様にお話しいただいた。

15:57~16:36 トークセッション

<企業の役割は>

○男性①：ある地域を良くしようとするときに、その地域の営利企業の関わりが重要になると思うが、営利企業とシビックプライドの関わりについてお話を。

紫牟田：企業も人ですよ。社長が持っていたり、行政が持っていたりがシビックプライド。社長や肩書きによってできることがある。見える化をするにあたって、いろいろなやり方が。

人見：表現しないとわからない。

紫牟田：このまちに住んでいて楽しいとは何でだろう。高松に来るならあの店に行こう、それだけでこのまちが好き。商店を開いている人は、それが楽しくて店を開いている。東京で買うより高松で買う方が楽しい。単なる「消費」でなくて、店主と楽しい会話ができる「関係」ではないか。

人見：自社がやっている仕事と社会とのつながりが見えづらい時に、企業のシビックプライドが見

えにくいのでは。大倉工業 戦後の焼け野原をみて、家の再建には瓦が要ると瓦屋を始める。アップルから町工場に注文が来ていたりすると、ビジョンが見えづらくなる。

紫牟田：企業 「私」を「公」にする。職員向けの施設を一般にも公にするとか。共有することによって、新しいつながりができないか。産業資産をオープンにする事ができないか。

<スケールについて>

男性②：私が活動していて自負を持っているとして、高校野球で全国大会まで行くと香川県が一つになり、イチロー選手が世界で活躍していると日本人がすごいと思う。シビックプライドはそれぞれによってスケールが変わるものでしょうか。

紫牟田：シビックプライドは個人なので、自分の中にあればそれでいい。研究会ではスケールを考えない。「渋谷」と言ったときに、みなさんはどの広がりや「渋谷」としてとらえているか、人によって違う。「一番住みたいまち吉祥寺」、行政区画からは吉祥寺ではないけれど吉祥寺に住んでいると思いたい。経験の上に認識している「渋谷」がある。経験によって、エリアの認識が違う。

- ・行政がアンケートなどで市民に聞くときには、「あなたは高松のどこを良くしたいのか」「お祭りをどうしたいか」など、個別具体的なことになりやすい。
- ・お祭りのデザインはおもしろい。「新しいお祭りはデザインできるか」で議論した。それがシビックプライドを育てていくことになるか。
- ・恵比寿の盆踊り どんどんリニューアルしていて、この前はシャンソン風になっていた。外人が多くいるところ。担ぎ手がいらないと言うけれど、その時だけ担ぎ手になってくれればいいではないか。
- ・新しいコトをデザインする事ではなく、そのようなデザイン、「参加性」が重要。

<デザインへの「参加性」>

人見：企業に置き換えると INAX 昔は伊那製陶 昔は、建築図面には「便所」としか書かれていなくて、工務店さんが便器を選んで工事をしてしまっていた。今は、トイレをショールームで選べるようになった。INAXは、デパートにショールームを作り、市民がデザインを選べることに気づかせた。

紫牟田：コーポレートアイデンティティ CI ロゴ 「差別化」ではなく「帰属」のもの。東京にアイデンティティがあるか、無い。東京に住んでいるので、シビックプライドを持ちたいと思っているのでは。東京に住んでいることがシビックプライドになっているか疑問。東京に住んでいるのに、出身はと聞かれると「岐阜です」と岐阜の話をととても楽しそうにされる。高松に来たら三友堂

人見：東京に三菱商事があるとシビックプライドしない。三菱商事がもっとPRしないといけない。

16:24~16:36 質疑

男性Q：県庁職員 出身は東京の多摩市 多摩ニュータウンで生まれて育った。「多摩にはアイデンティティも、シビックプライドもなかった」とここに来て感じる。どうしたらアイデンティティを感じられるのか、何かヒントを。

紫牟田：無ければ、無いでもいいとの考え。「町が好きになれない」との質問を受けたことがある。

町が嫌でも何かをしたいのなら、自分がするのではなく、やっている人を見つけるのがいい。

田舎と都会を対比すると、刺激の量や狭さ、郷土愛は相反する感情を生み出しやすい。

- ・ロドルフエルフ 場所には7つの段階がある。疎外感を感じる ~ その場所に親近感を感じる この場所と私は一体感しているの段階もある。体験という関わりを通じて「場所性」を有する。
- ・没「場所性」 スタバがどこにでもある。悪いことではない、安心する。
- ・その場所が好きになれるかどうかは、その人の問題で、もっと好きになれるところに移住していけばいい。

人見：自己肯定感とシビックプライドは一体。海外の事例にあこがれるのは、日本人の自己肯定感の低さがある。

紫牟田：個人を肯定することが大前提。

人見：日本人は長く正解探しをしてきた。自らのことを表現するのは皆無。自己肯定感とシビックプライドは一緒に考えたい。

紫牟田：子ども食道 とても良いと思う。子どもが一人で寂しくしていたり、コンビニ食事だったりしているなら、「うちで食べなよ」とやっちゃうことがシビックプライドの一つ。本人はシビックプライドと思っていない。

- ・子ども以外に、年寄りや障害者も入ってきて、ワイワイやっている。雰囲気が良い。おばちゃんたちが料理をしているキッチンで、順々に食べていく。子ども食道をやっている人たちがやり甲斐があり、自己肯定感がある。
- ・ダイバーシティを信じている。多様であることを生き生きさせる状態がとても良くて、団地の再生も、主体になる人、主体になる人を助ける人、主体になる人を後押しする人 いろいろな関わり方をすることでの自己肯定感。

16:36~16:40 閉会 でみず

- ・町に対して当事者意識を持って関わる、他人に対して表現することの大切さを再発見。
- ・気づきがありましたら、アンケートに記入を。
- ・今後は、このイベントで得たことを、地域マネジメント研究科の学生として研究を進め、シビックプライド高松としては、ヒトとコトをつないで、「いいね」と言っていただけよう取り組んでいきます。

—以上—